

## 第 23 回安曇野市景観審議会 議事録

### I 会議概要

- 1 開催日時 令和 2 年 4 月 16 日（木）午後 3 時から午後 4 時 45 分
- 2 場所 安曇野市役所 本庁舎 3 階 共用会議室 3 0 6
- 3 出席者
  - (1) 審議会委員（敬称略）  
上原 三知、場々 洋介、前田 福広、浅川 隆、川井 敏克、堀井 三郎、金子 裕
  - (2) 安曇野市  
坪田 浩昭 都市建設部長  
矢花 治 都市建設部建築住宅課長  
小林 健 都市建設部建築住宅課建築景観係長  
兼井 聖太 都市建設部建築住宅課建築景観係  
  
小林 真幸 株式会社 KRC（景観計画改定支援業務受託業者）
  - (3) 傍聴人  
なし

### II 次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 委員・事務局紹介
- 4 会長、会長代理の選出
- 5 会長あいさつ
- 6 報告事項
  - (1) 景観条例・屋外広告物条例の運用状況について 資料 1-1・1-2
  - (2) 緑のまちづくり事業の状況について 資料 2
  - (3) 屋外広告物に関する特例措置の対応状況について（非公開） 資料 3
  - (4) 山麓保養区域における壁面後退の運用状況について 資料 4
- 7 協議事項
  - (1) 安曇野市景観計画の改定について 資料 5-1・5-2
- 8 その他
- 9 閉 会

### III 要旨（協議事項部分のみ抜粋）

- (1) 安曇野市景観計画の改定について  
（建築住宅課 小林係長、株式会社 KRC 小林氏 資料 5 により説明）

## (上原会長)

ただいまの説明や内容について、ご意見、ご質問のある委員の発言を求めたいと思いますが、いかがでしょうか。

## (場々会長代理)

見直しということで、アンケートの中で傾向等を見ていただいておりますが、具体的にどのあたりを変えていこうとか、ビジョンや方向性はありますでしょうか。

## (小林氏)

今後、このアンケートの結果と現状の課題等も含めて改定の案を提示して、皆様にご審議いただくということになるとおと思いますが、特にこのアンケートで景観計画の中身に関する部分と言いますと、一つは手続きで景観計画の基準を作っているのですが、この基準に関するところで過不足があれば変えていくということになります。したがって、資料で言うと 5-2 の問 15 で課題を見ていくことになるのですが、この(景観の阻害要素)上位項目が空き家・空き店舗、耕作放棄地、不法投棄といった問題が上位に挙がってきているので、こういうところを今後どういう形で景観計画においてとらえていくかが課題となっていくと思います。一方で、これまで基準で細かく作りこんできた建物の形態とか高さとか屋外広告物とかは、その阻害要因としては相対的にはそんなに高い比率ではないので、これは一定の評価を得ているものとして、現状ベースで議論していったいいのかなというところも見えてくるかと思います。あとは施策についてですが、今後取り組んでいくべき重要度の高い施策に関しては重点的に議論していく対象となりますが、そこまで比率の差は出ていませんが、資料 5-2 の問 20 で市が取り組むべき景観施策についての重要度、その上では同じ項目で満足度を聞いておりますので、満足度が相対的に低くて、重要度が高い項目は今後新たな施策を打っていくという見方もできるので、そうしたところを切り口に、景観計画の改定のどこに力点を置いていくかというところは議論していければと考えております。

## (場々会長代理)

提案になりますが、当初そんなに大きく議論しなかった部分だったと思いますが、ソーラーのことについて、屋根に載せるものはよくある話ですが、そうではない規模が大きいものも増えてきていて、地域によっての差はあるのですが、それに対する市の考え方や基準はありましたでしょうか。

## (小林氏)

太陽光発電施設に関しては、景観計画を安曇野市が作った後に、県条例の方で多少仕組みが強化されたりした経過があったと思いますが、安曇野市の手続きの中では、土地利用の制度の中で担保している部分があって、そちらと連携してやっていくというところがあります。景観計画では太陽光発電施設に関しては、緑化とかなるべく景観に調和するような形でやってほしいということをガイドラインの方の基準の中に入れさせていただいているのですが、今回の結果から言いますと阻害要素では 12.8%ですが、地域別に見ますと、例えば牧地区は太陽光発電施設に対する関心度が非常に高かったりするという結果も見られています。案件が発生すると課題が顕在化するというのが太陽光発電施設の特徴かと思いますので、今回の景観計画の改定の

重要な課題の一つとして位置付けられるのかなと思います。

(場々会長代理)

土地利用の委員を務めたこともあります、ほとんど出てくるのは太陽光か携帯電話の電波塔ばかりでしたが、景観とは観点がちょっと違うので、景観を阻害しないようなガイドラインをこの際作ったらどうかと思います。

(上原会長)

どこを重要視していくかということかと思いますが、まずは景観計画が対象としている建物とか色の基準が評価されているのではないかというご説明だったわけですが、逆に言えば、それが理解されていて評価されているのかどうかということは検証の余地があって、むしろ規制があることすら理解されていないという場合を合わせると、実は気づいていないという可能性もあって、そういうことであれば、色をこれだけ抑えているよとか、こういう基準があったから看板がこれだけ小さくなったというようなことも、あわせて丁寧に説明していく必要があるのではないかと思います。それと太陽光については、県の方の条例でも視点場とか地域の外から見た時の方が、割と俯瞰で上から見えるので反射の影響が大きいとか色々な話が出てきていますが、地域のどういったところに開発が今後重点的に見込まれるかといったことを考えると、たぶん山林の放棄とか農地が活用できない話がセットになって、ある程度開発されそうな所が見えてくると、そういった場合に安曇野の眺望を守るために、太陽光があるとちょっとまずいよね、ということが、景観計画の方でもどういう風なことが必要かという話をしておいてもいいのかなという気がしますし、景観計画本体の部分のちゃんとした評価、よりよくなるような議論と、プラス新しくほかの部分で他と連携していかないと難しい部分についても議論すると良いのかなとも思いました。

(浅川委員)

私の地域では太陽光の施設ができたり、西山の山麓線に近いところで山の反響により電波が上手く届かない場所ですから、電波の塔も建設されたりしています。そういった電波塔に関しては、建てる場所を神社のすぐ脇に建ててもらって、茶色く塗ってもらって、遠くから見た時に神社と同化して見えるようにしてもらおうとか、高さを調整してもらおうとかによって問題の解決を図ってきました。それと太陽光発電施設についていえば、荒廃農地に建てるとか、開発が中断したところを何とかしたいという流れの中で太陽光発電施設にしたおかげで、今まで草だらけだったところが太陽光発電施設になって、幾分良くなったということもありました。一方で、いくつか問題もありまして、一つは造った後の維持管理の中で除草の問題がありまして、ほったらかしにして草だらけになって、非常に景観が悪くなることがありました。結構交通量の多いところにある荒廃農地だったところの太陽光発電施設も年に1回ぐらいしか草を刈らないものですから、そこの横の土地も含めてほったらかしになってしまい、草だらけになって非常に景観を阻害しております。そのため、私の地域にできた太陽光発電施設について言えば、その設置者と協議しまして、あまり高いフェンスは造らないということと除草の管理をしっかりしてほしいということで許可しました。一方で、気がつかなかったこととして、田んぼのど真ん中でしたので、電気を送電する電柱のことが頭に全然なくて、出来上がってからあんなところに電柱がいっぱい建っているということで、あとで揉めたという件がありました。今まで何

もなかった景観のところに電柱が建ってしまったので、そういった施設を造ることによって電柱の問題が出てくるということも心得ておかないといけないと思います。市街地であれば電柱が近くにあるのでよいのですが、特に農村地帯に行くとそういう問題が出てくるものですから、やはり業者に聞いたら、地下に通すとお金がかかるので、電柱の方が安いという経済的な問題もあるものですから、十分話し合っていないといけないのかなということです。経験したことを2点発言させていただきました。

(上原会長)

今、いい工夫の事例とこういう問題が生じたよというお話だったかと思いますが、そういうものはある程度共有しておいて、逆に言うと事業者の方にもそういうことが生じますよということで、事前に問題にならないように住民説明をしていただくとか、こういう風にできていくといいよねといったガイドライン的なものを景観計画の方でも追加すると良いかと思いますので、また議論していければと感じました。

(川井委員)

2～3ページのクロス集計についてですが、1ページ目の①該当者の属性のところを見ると、性別で男性と女性で分けると、約7割強は男性になっているので、男性の目線と女性の目線では違うところがあると思うので、違いを見てみたいと思います。その下の年齢別を見ても、約7割が60歳以上ですので、60歳未満と60歳以上の方たちの意見の相違がどのようなものなのかを見てみたいという気がしますので、できたらお願いします。

(上原会長)

非常に重要なご指摘だと思います。私も年齢の話はすごく気になっていまして、70歳台が一番多いですが、今後10年後に80歳になられる方と、今30～40歳の方々の10年後とは意味合いがだいぶ変わってくるかと思います。したがって、年齢の部分について抽出して、どういう風に認識しているかということはずごく重要なポイントかなと思いました。あと、東日本の復興などをお手伝いしていると、やはり委員さんとか代表が男性ばかりで、男性が決定するけれども、あまり家のことをよくわからないために、非常に使い勝手が悪かったりして、あとから女性の意見によってひっくり返されるということがありましたので、女性の意見を生かすために、そういう人たちにフォーカスした場合にどういう風な認識を持たれるのかということは別途データを抽出して見てあげるとするのは、一つポイントだと思います。もちろん今まで十分やってこられた先輩方の意見も重要ではありますが、私の方の研究室での調査でも、景観計画を10年前に策定した人はみんな基準を覚えているけれども、そのあとの10歳下は誰も知らないといった断絶がありました。軽井沢も今までは軽井沢ブランドで別荘を持っていたかもしれませんが、次の世代はホテルでいいと考える人が多く、高いお金を払ってわざわざ軽井沢に行く必要があるのかという形で、かなりジェネレーションで価値を持っている基準がガラッと違う可能性というのもあるような気がするので、今回データを取っているのも、少数意見とはいえ抽出して見ていくということも非常に面白いのかなと思いました。

(前田委員)

クロス集計なので、色々な見方はできているとは思いますが、目的別の景観、例えば人によっ

て、景観がどうですかという設問であっても、それに対する答えの基準というのは違うと思います。したがって、特に先ほどのソーラーのこともそうですが、松本市の景観審議会でもそういったことがよく話題になるのですが、やはり普段あり得ないような、航空写真や生活レベルでは目にしないようなものを持ち出して、これがいけない、あれがいけないと議論される方もいらっしゃるけれども、やはり生活に根差した景観というところだと、目的に応じて、この地域は商業地域です、この地域は公園に特化した地域です、というような目的によってエリアごとの特性というのが、同じ地域の中でもあると思います。したがって、ビューポイント、容易に行けて全体を見渡せるようなポイント、を指定したうえで、そこからの景観に対してどう思いますかというような設問の方がわかりやすいのではないかと思います。また、全体で景観についてどう感じますかというのも大事ですが、やはりあまりにもとらえ方に個人差が出てしまうのではないかと思いますので、エリアごとに質問したほうが良いかと思います。できれば、先ほど浅川委員からも大型店の進出によってメインストリートで看板が非常に景観阻害するのではないかと意見も出たのですが、私としては賑わいというのはどうしても必要ではないかと思います。よくヨーロッパを題材にして提示される方が多いのですが、やはり歴史背景を見ると無理があるのではないかと思います。商業地域であれば、街のにぎわいというのは、非常に日本独特の、アジアテイストというような、猥雑さとか、混沌としたところにも、一つ楽しみとか、にぎわいとかということで、ひとつ街並みの形成の要素となるのではないかと考えております。したがって、一概に良好な景観ということではなくて、目的に応じた景観の説明とかガイドラインとか解説とかがあって、なおかつエリアごとに景観のヒアリングをするところまでいければ、もうちょっと地域により今後に生かせるようなデータが取れるのではないかと、ということを感じたところです。

#### (上原会長)

今も話を聞いて、景観という言葉が日本では非常に曖昧で、海外で景観計画というと、土地利用計画のことで、建物の色とか看板の話というのはほとんどない訳ですが、日本の場合では規制する権限が新しくつくられるものの、サイズや色の話になっていて、そもそも計画自体でコントロールできないところに課題があがってくるというところに話の難しさがあると思います。そういった意味では先ほど地区別に集計してもらって、住んでいるところは悪いけど、全体では高いというデータがありましたが、そういう場合には、たぶん商業地や住宅地ではそうでもないけれども、一步田園の方に出ると、それから車窓等からの風景とかが非常に評価されているのかなと読み取れるかなと思いますので、せっかくゾーニングがされているので、もう少し丁寧に見てみて、ここはある程度住宅や商業が混在しているので、そうなのだけど、全体としてはどちらの方も評価しているとか、県外の方は評価しているけど、地元の方はそうでもないのかとか、そこら辺が今後の協力体制を作るうえで重要な話かなと思いました。あと一つは、面白い研究が海外にあって、大きな緑地がなくなりますよとなった場合、あなたはいくら払って反対しますかというアンケートをした時に、公園の利用者が一番払うのかなと思ったら、実はアンケートした結果は、自分の家からそれが見える人が一番高く払うという結果がありました。要は資産価値になっており、住宅からその緑地が見えることで自分の家の価値が高まるということです。運動する人は隣町に公園があるのでいいですみたいな。それを実際どこから見た評価なのかみたいな話が実はすごく大事なんだけど、緑が大事だよねというみたいな議論で一気にやってしまうと実はニーズとあってなかったりとか、あるいは住宅から見ることが大

事なのに、ビルが建ってしまって価値が下がるとか、そういったことはあり得る話なので、せっかくこういったデータを取られたので、もうちょっと場所と眺望ポイントの関係とかまで踏み込んだ何か提案とか成果が出ると非常にいいかなと思いました。

(金子委員)

今回のアンケートは今ある計画の改定に向けて、見直しに向けてのものかと思いますが、このような議論を計画策定した際にやったのではないかと思います、今の計画の方向性も間違っていないかという気がしております。ですが、太陽光の問題とか時代の変化がありますので、何が今の計画で追いつかないのか、または皆さんが今の計画で何に困っているのか、そんなことを考えながら、計画の見直しをしたら良いのかなと思います。

(上原会長)

金子委員から頂いた意見も非常に重要だと思ひまして、特に先ほどあった企業がなくなった場合の話も、太陽光もたぶん買取価格が終わった後に、東京の業者とかがなくなった場合にどうするかみたいな、時間の流れの話みたいなこととか、あるいは先ほどご意見があったように世代間ですね、もともと居られる人と若い人、あるいは県外から来た人と地元の人ということなんかも、今後検討していくことが必要かと思います。

ぜひ、今の計画のいい部分はさらに強化したり、市民にちゃんとお伝えしたりして、もうちょっと時代の変化とともにこれが必要だということについては積極的に議論をして、よりよいものを提案していくということが、このアンケートが使われれば非常にいいのではないかなと思います。

(小林 建築景観係長)

事務局から1点お願いですが、先ほど説明した緑のまちづくり事業についても、今回のアンケートの項目に含めさせていただいて、市民の皆様から知らなかったという回答が多かったりとか、継続したほうがいいのではないかというご意見をいただいています。この際ですので、委員の皆様からもこの記念樹の配布事業と生垣設置の補助事業についても、ご意見いただければありがたいと思いますので、よろしくお願ひします。

(上原会長)

緑のまちづくり事業について、ご意見や提案がありましたらお願ひします。

(浅川委員)

ソーラーが生活圏にある方は、特にノイズ的に感じて、うっとうしいと思うのですが、ソーラーなんかは比較的低い生垣でカバーリングができると思います。だから、そういうところは積極的にソーラー事業をやられている地主さんとか所有者に生垣の活用をぜひ進めて、目隠しをするということが大事かなと思います。住宅に限らず。

(上原会長)

非常にいいですよ。あと、オーストラリアで見たのは、中国なんかもそうなのですが、先に住宅の外構に木を植えてしまおうとか、日本は全部終わった後に予算がない中で木を植えようと

しますが、先に大きくなるようなスペースを取っておくという方法もあります。リストを見るとシラカシだけが高木になって、ほかは大きくなり木だと思いますが、太陽光パネルでシラカシを植えてしまうと、大きくなって影になってしまうので、問題があると思いますが、これを見て植えた木が何本残っていてどういう緑地になっているのかといった話が、今日の資料自体も数字が多いので、セットバックの話もそうですし、こういう風景をつくるのに、寄与できたのだよという、実際の写真とかそういうものがないと市民の方には、ちょっとピンとこないかなと思いました。ですから、ぜひそういう形でいい事例を紹介して、こういうことができますよという形で活用されたらいいのではないかと思います。

**(場々会長代理)**

景観計画の中で緑化率を定めていますが、実際にはうちの近くの事例を見てみると、木が1本もないという家が結構あります。芝生ぐらいはあるのでしょうけど、もし植えても記念樹1本とかでいいのかなという疑問もありますので、本当に緑化していただくような、前向きな施策が打てないでしょうかいうことは感じます。

**(上原会長)**

1本、2本では効果が薄いという話ですね。

**(場々会長代理)**

ほとんどないと思います。

**(上原会長)**

ヨーロッパなんかだと、セットバックしたところに、まちの木とかで同じ木を植えて、将来的にはみんなで拠出したところが街路樹みたいな街並みをつくりましょうというのが、たぶん景観計画と連動した提案をしているのだけれど、日本の場合は木を配って、どういう風に植えられて、どういう風になったかということまではなかなか難しいですかね。あと、最近聞いたのは、若い人が草刈りとかする時間がないと、全部コンクリートで舗装してしまうという話も聞いたことがあるので、世代的なニーズとかを考えた上で、どういう方にお配りするのが一番いいのか、あるいはもうちょっとまとめて配って、先ほどの太陽光とか、もう少しマストで植えられるところに、提案していくというのも一つあるかもしれませんね。

今日、ご欠席の委員の皆様も多いので、貴重な資料ですから、色々と次に向けてご確認いただくのがいいのではないのかなと思います。それでは、安曇野市景観計画の改定については、以上でよろしいでしょうか。

それでは、8その他について事務局から説明をお願いします。